

テ思様ニモ不被渡略○中 佐々木四郎高綱、宇治河ノ先陣渡タリヤト名乗モ果ヌニ、梶原源太モ流渡ニ上リニケリ、源太佐々木鎌倉へ早馬ヲ立略○中 三日ト申ニ馳付テ、高綱宇治川先陣ト申タリ、同時ニ梶原ガ使又來テ、景季先陣ト申ケリ、右兵衛佐殿ハ、安立新三郎清恒ヲ召テ、佐々木梶原生タリヤト問給へバ、共ニ候ト申、其後ハ尋給事ナシ、後日ノ注進ニ、宇治川ノ先陣ハ高綱ト被注タリケルヲ見給テ、コソ言バト心ト相違ナシトハ宣ケレ、

〔平家物語 十一〕とをやの事

新中納言ともも卿は、かやうにげちし給ひて後、小舟にのり、大臣殿宗盛○平の御前におはして申されけるは、みかたのつはものども、今日はようみえ候、但しあはの民部まげよしばかりこそ、心がはりまるとおぼえ候へ、かうべをはね候は、やと申されければ、大臣殿、さしも奉公の者であるに、みえたる事もなくして、いかでか頭をばはねらるべき、まげよしめせとてめされけり、中略 新中納言は、たちのつかくだけよと、にぎるまゝに、あつはれまげよしめが、くびうちおとさばやと、大臣殿の御かたを、まきりに見まいらせ給へ共、御ゆるされなければ、ちからおよび給はず、略○中

せんでいの御入水の事

あはの民部まげよしは、此三が年が間、平家に付てちうをいたしたりしかども、まそくでん内左衛門のりよしをいけ取にせられて、今はかなはじと思ひけん、たちまちに心がはりして、源氏と一に成にけり、

〔太平記 七〕千劔破城軍事

楠成○正ハ元來勇氣智謀相兼タル者ナリケレバ、此城劔○千破ヲ拵ヘケル始、用水ノ便ヲミルニ、五所ノ秘水トテ、峯通ル山伏ノ秘シテ汲水此峯ニ有テ、滴ル事一夜ニ五斛計也、此水イカナル早ニモ